

俳句

盛夏

木々朗

額咲くや雨滴重ねてみずみずし  
青梅雨やほどよき距離に魚市場  
葛切や銀座に雨の到るなり  
団欒に薄茶一服葛ざくら  
風鈴を吊る夕空になにもなし

雑詠 水無月

細田安治

水無月に 無は「の」と読む 水の月  
世界中 悪疫退散 のろし上げ  
水無月に 穢れ払うぞ 歳なかば  
鎮守様 茅の輪くぐれば 一安心  
水無月に 衣着替えて 気も新た  
コロナ禍や ハッキリしない 時差と夏



葛切り

出典：<https://ja.wikipedia.org/wiki/>